

終わって、ほっ…

そして、ここからスタートだ!!

彩の子ネット総会レポート

関昌美



去る6月24日、彩の子ネットワーク第10回定期総会を行うことができました。

今年の総会は波乱の中での準備となりました。この4月にNPO法の改正があり、理事の代表権にこれまでと変更が生じました。私たちは代表理事だけでなく理事全体がこのネットワークを支えていくこととしており、そのことを定款でどう表していくかを考えることに挑戦しましたが、埼玉県内では前例がないというので、今回の総会での定款変更は見送ることとなりました。

また、代表理事の鈴木玲子さんが総会数日前から高熱が



続いてしまい、私は汗・汗・汗…。みんなで大気で取り組まなければと思い、話し合いながら力を合わせて行うというみんなの力を結集させた総会となりました。

当日は40名程の方々が出席して下さい、皆さんに支えて頂いていることを実感することができ、感謝の気持ちでいっぱいでした。

ご来賓の方々にご挨拶を頂いた中で、埼玉県社会福祉協会の奥野淳子さんから、彩の子ネットワークの活動は今の社会に必要でありながらも、制度では届かない大切なことを一つひとつ積み重ねていくとの嬉しいお言葉を頂きました。

また、福島県双葉町副町長の井上一芳さんからは、双葉町は未来ある子どもたちのために埼玉に避難してきたこと、さいたまスーパーアリーナでの福祉班との出会い、旧騎西高校で今なお続く避難生活、そして全国に避難を続けている親子が双葉町出身というところでつらい思いをしている現実：についてお話を伺うことができました。そうさせてしまっている私たちの社会を、一人ひとりの意識を、本当に

変えていきたいと強く思いました。

この他にも、子育て中の母親たちの声、シングルマザーサロンが始まったこと、子ども夢未来フェスティバルでも生まれた「子ども電話じやない相談室」は子どもと大人の関わりが嬉しいものになっていくこと、そうしたやりとりの中での子どもたちの真剣な姿などが伝わる総会となりました。

本日にドキドキの一日を終え、身も心もほっとしたところでしたが、ここからが始まりです。新理事として門平公夫さん、中泉理奈さん、八重樫裕子さんが加わり、嬉しいスタートを切りました。

今年度も皆さんと一緒にひとつひとつの事業をつくっていきたくと思っています。様々なかたちで、一人でも多くの皆さんに関わって頂けることを心から願っていますので、どうぞよろしくお願い致します。



環境ネットワークの榎本さんが、鳥の声を聴かせてくれています。

7月22日のシングルマザーのサロンであったこと



今回のサロンはこれまでに参加された方たちと一緒に過ごすうれしい日となりました。午前中はいろいろなトッピングのそうめんとかき氷を楽しみました。星型にくり抜いたハムや薄焼き卵、しそ、しいたけ煮などたくさんのおうちの味がみんなで堪能し、あたたかい気持ちになる時間が過ぎました。また、たくさん種類のかき氷シロップから、子どもたちは自分でオリジナ

ルの味をつくってうれしそうに食べていました。食材の寄付や、それぞれがボランティアで作ってきたくださったこともあり、みんなでこの一日ができています。

午後はシングルマザーのサロンと保育を行いました。お母さんたちが語り合う時間、子どもたちは遊んで過ごします。保育は、一緒に子育てをしたいと願う無償ボランティアさんが担っています。さまざまな形での応援があつて、この日ができていることを実感した一日となりました。

お帰りの時間で、「次は、まんまるいものをつくって食べたらのしそだねー」と話しがでっており、また、自分たちで自分たちの欲しい時間があり、嬉しく思いました。次回は9月23日(日)です。(ヒトリミナカMAPJ)

「仕事帰りの葛藤」～シングルマザーのサロンから

このところ少しの残業が続いて「何時に帰ってくるの?」「7:30につくよ、もう少し待ってね。」そんなメールを毎日帰りの電車の中でしていた。

ある日「ママ、おなかすいた。焼きおにぎり3つチンして食べていい?」そのメールをもらった時、あと20分くらいでうちにつくところだった。なぜかすぐに「うん、いいよ」とは言えなかった。もう少し待っていてくれたら、ちゃんとごはんを作って食べてもらえるのに…でも、待てないくらいおなかすいているんだよね。かわいそうなことしちゃってるな。でも仕事だから、仕方がないな。なんだかとても悲しい気持ちになった。おなかすいた時の非常時用の冷凍の焼きおにぎり、今非常時なのに、そう思うことができない。なかつたら待っていられたのかな? など、余計なことまで考えてしまって苦しい気持ちになった。

何分か経って「いいよ。」ってメールした。すぐにメールできなくて悪かったな、どう思ったかな、などモヤモヤした気持ちで駅からの道歩いた。

「おかえり～!焼きおにぎりすっごくおいしかった～」帰ったら、とてもうれしそう顔で迎えてくれた。うちについて、ほっとしました。

赤ちゃん学校へ行く!

と
お母さん



子連れで出かけるようになって初めてわ

— 高校生に伝えたい

子どもがいるかどうかではなく、

知らない人でも助け合える

— なんだかこっちの方が生きやすいなと思ったから。

樽井 花子

埼玉県立上尾高等学校の家庭科の授業を訪ねていき、赤ちゃんや子どもたちとの交流を行う機会を作っています。事前に、お母さんたちと、子どもや子育てについて、教科書には載っていない実感を高校生に伝えていくために、打合せをしてから授業に望んでいます。

今回は、樽井花子さんが話してくださったことを紹介したいと思います。



子どもとふたりきり閉鎖的な生活を強いられて

まだ、娘が0歳だった頃、家に二人でいると息が詰まる感じがして、ショッピングモールなどの、授乳室やおむつ換えスペースのあるところに意味もなく出かけていました。だんだん子連れで外出することにも慣れ、電車に乗って出かけるようにもなりました。しかし、電車でのお出かけは、大荷物を抱え、ベビーカーを押す、電車が混まない時間に乗らないと大変です。子どもは、電車の中だろがかまわず、大声で叫んだり泣いたりします。私は電車の中で子どもがぐずってしまおうと、やはり周囲の人に悪い気がしてしまいます。

私(母親)にもどうにもできない

さらに、「母親なら泣きやませろ」とか「しつけができて

ある雨の日のおでかけでの出来事

子どもが電車の中でぐずったので、ベビーカーから抱き上げて、片手で抱っこをし、片手でベビーカーと荷物をもって雨でビシャビシャのホームにおりました。片手でベビーカーを広げようとしたとき、何かが引つかかかってベビーカーが開かず、子どもはまだ自分で立つことも出来ないため、どうにもできない状態で、重い荷物と子どもを抱きかかえながら、一所懸命にベビーカーと格闘していたところ、ホームの工事案内をしていたおじさんが手伝おうとしてくれました。でも、ベビーカーはなかなか開きません。とうとうおじさんは「俺が赤ちゃんを抱っこしてやるよ」と言ってくれました。私は子どもを預け、やっとなベビーカーを開くことができました。いかに不慣れた様子で子どもを抱くおじさんは「抱っこしてやるよ」と言うのにきつと勇氣

がいっただろうと思いましたが、本当に嬉しいことでした。出かける勇氣が出ます。

勇氣のある声を感じて

この話をしたいなと思ったのは、私は子どもを産むまで、外出先で知らない人と話したり、誰かに手を貸したりしたことがなかったことを思ったことと、子連れで出かけるようになって初めて、知らない人でも助け合えるんだなと実感しているからです。

「こども☆夢☆未来フェスティバル」が2013も開催できることになりました!

実行委員長に立候補したい!!
中泉理奈

彩の子ネットワークでは、「こども☆夢☆未来フェスティバル2013」を開催するにあたって、今年度は埼玉県NPO活動促進助成事業に申請しました。これまで、12年間かけて積み上げた関係や、ネットワークをさらにつなげていきたいという思いでプレゼンテーションに臨みました。

そして、助成金を受けられることになり、埼玉県県民活動総合センターを全館貸し切りで行う規模での開催ができるようになりました。

今年も、「子どもと一緒に未来をつくりたい」という願いを込めたいです。昨年行った「子ども電話じゃない相談

室」をはじめ、各企画を今年こそは、子どもたちと一緒につくっていきたいという思いがあります。子どもたちが本当にやりたいことや、知りたいたいことを大人も子どもも一緒にやっていけるように企画をつくっていきます。

ひとつのイベントを通して、子どもがたくさんの大人と出会うことができます。実行委員会では、どんなテーマでやるか、どんな団体さんや人がコラボするとおもしろいか? など、みんなで話し合います。それぞれの日常で感じていることから、ここではどんな関係を作ってやっていきたいか、それを実現し、これからの未来をつくるフェスティバルです。是非みなさんと一緒に作りたいたいです。

実行委員会では会いましょう。

こども☆夢☆未来

フェスティバル2013

日時：2013年2月24日(日)
10時～16時

場所：埼玉県県民活動総合センター
第1回実行委員会

場所：上尾市富士見小学校(大集会室)
日時：2012年9月17日(祝月)
13時30分～16時



それは、赤ちゃんの泣き声から始まった：

今やれることを、やるんだ。

—子どもが生まれた時、自分の意思とは関係なく、

毎日が押し寄せてきた—

震災であたりまえの生活から放り出された

人々の「大変」を思った……。

鈴木玲子

2日目、withyouにシャワーにきた赤ちゃんのお父さんから、哺乳瓶を洗う洗剤とブラシがほしいという申し出がありました。

ボランティアセンターには、山のように物資が届いていません。何人かで探してみましたが、その中に哺乳瓶の消毒や洗浄のための道具はひとつもありませんでした。

震災が起きてからずっと哺乳瓶をちゃんと洗えないまま使っているのだと思うと、ミルクが落ち切れない哺乳瓶が頭に浮かびました。その哺乳瓶を使ってわが子にミルクを飲ませることを思うと、不安でせつない気持ちになりました。

不衛生な状況で赤ちゃんが亡くなってしまう国の子どもたちと同じようなことだと思えました。

小さなものだけど生死にかかわる大事なものだとかわかって、決断することが難しいことを知って悲しい気持ちになりました。

班長会では、ボランティアセンター本部のT氏（震災支援バイクレスキュー隊の経験から、今回、社協ボランティアセンターに参加）から、「保育班」はよく動いているから、お年寄りや障害者を含めた支援の人を全部対象にして「福祉班」になって動いてほしいと言われました。介護のことは、私はやったことがありません。でも断る選択はできないと思いました。

紙おむつが必要だと想像することはできても、ミルクの缶は届いても、はつきりとした医療が必要ということではない、こうした衛生面などが抜け落ちるのだと思いました。

夜の班長会で、哺乳瓶を洗う洗剤とブラシがほしいと報告しました。しかし、購入しようという話し合いにはなりませんでした。緊急事態のために動かす予算が決まっていた訳ではないので、どうにもできないことだったのでしよう。

満員御礼！

◆預ける預かる体験◆
—子どもを預けて自分の時間—

高校生が子どもを預かり、その間お母さんたちは8つの中から講座を選んで受けます。

日時：8月3日（金）
13:15～
場所：上尾市文化センター

さいのの音楽祭を聞こう！



彩の子ネットワークが運営している、さいたま市子育て支援センター「さいののこ」が9月4日で6周年を迎えます。そこで、8月30日にちよっぴり早いお誕生会を開きます。さいののこで活動している「手話ソングサークルしゅわしゅわ」の発表をはじめ、さいののこママたちのピアノやフルートの演奏、さいののこセミナーから生まれた子育てコントも公開します。

他にもステージを飾ってくださる方や、企画メンバーも募集しています。みんなで楽しい日にしたいと思っております。たくさんの方の参加をお待ちしています！

日時：8月30日（木）

10時45分～11時45分

会場：大砂土東公民館 2F

レクリエーションホール

東武野田線 大和田駅より

徒歩3分（北山公園となり）



編集後記

中泉 理奈

あそぼうよの5周年の準備が行われる中、事務所で編集作業をしている。準備に関われないでいる申し訳ない気持ちと、どうしても5周年の日に発行を間に合わせて、多くの方にわたしたちの活動で出会う声を伝えていきたい気持ちとの葛藤の中である。仕事、家事、育児がある日々の生活の中、「どうしてもっと早くこのことができなかったんだ」と自分を責める気持ちにもなりながら、それでも日々を精一杯生きていく中、今この状況、それでしかできないでいる自分もいるこの状態を受け止め、下がることなく、『やってみる』次号は、子どもたちから教えてもらったことをお届けしたい。

ご意見・ご感想をお寄せください。また、掲載希望記事もお持ちしております。（掲載要相談）

「のに、なんで新聞」

平成24年7月28日発行

発行 vol.4

編集人：中泉理奈

発行人：鈴木玲子

発行所：NPO 法人彩の子ネットワーク

〒362-0017

埼玉県上尾市二ツ宮 1156-3

TEL：048-770-5272 FAX：048-770-5270

E-mail：office@sainoko.net

HP：http://www.sainoko.net/